

～身近な生き物を見つけよう～

# さっぽろ生き物さがし 2019

## ★ さっぽろ生き物さがし2019について

札幌市では、毎年春から秋にかけて、市内の自然環境の状況を把握するために、指標となる生き物を市民みんなで調べる一斉調査を実施しています（2015年から継続実施）。2019年も7つのグループを対象に、見つけた動植物を報告してもらいました。

前回に続いて5月に開始し、春の花やカエルのなかまを報告してもらったほか、セミのなかまについて初めて報告してもらいました。

● 今回の調査対象の生き物たち ●

前期 5月17日～6月30日 後期 7月1日～9月30日

<p>春・初夏にさく花</p> <p>夏・秋にさく花</p> <p>前期+後期</p> 	<p>カエルなどのなかま</p> <p>前期</p> 	<p>草原の野鳥のなかま</p> <p>前期</p> 	<p>前期+後期</p> <p>マルハナバチのなかま</p> <p>前期+後期</p> 	<p>セミのなかま</p> <p>後期</p> 	<p>後期</p> <p>トンボのなかま</p> 
---	--	--	--	---	--

## ★ 調査結果の概要について

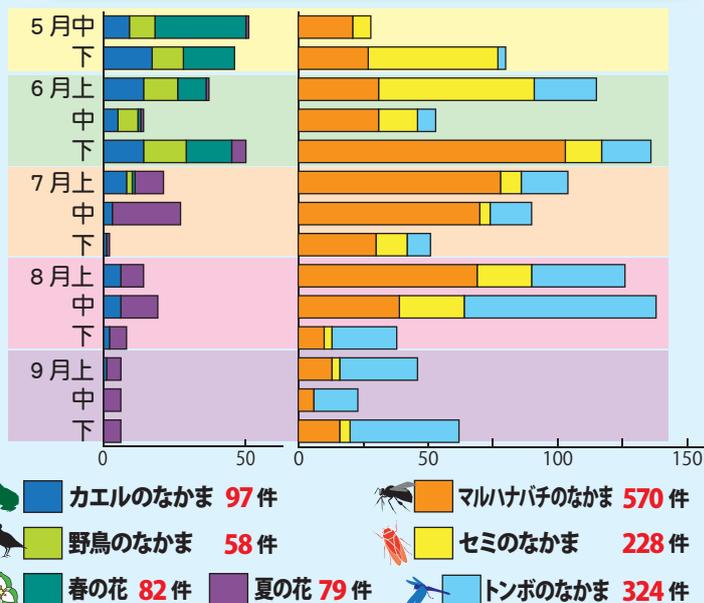
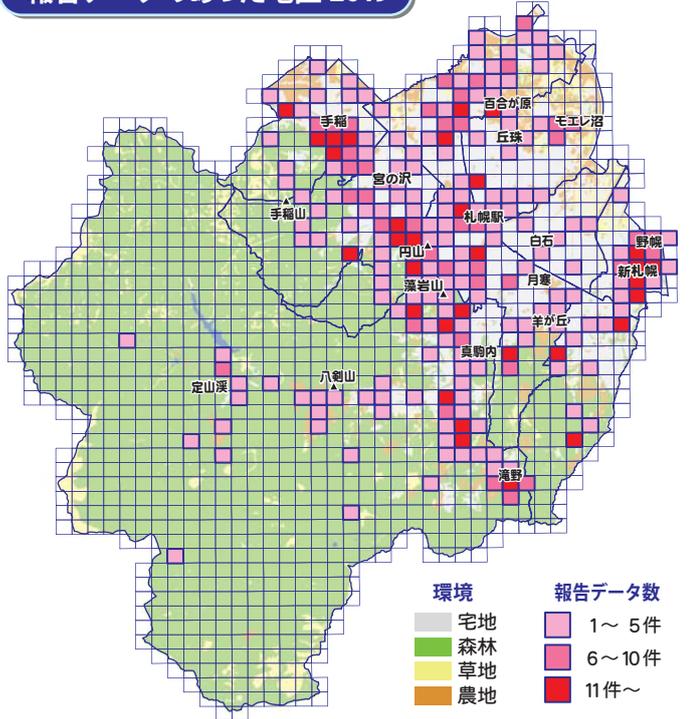
今回はこれまでで最も多い、140チーム、計879名が参加しました。前期までに約660件のデータをいただいていたが、最終的に1,897件のデータを送っていただきました。

調査した地区数もこれまでで最大の236地区（1キロ四方の単位）。今回は市内の約2割の地区を調べることができました。

### 今回の調査の概要

- 調査期間 2019年5月17日～9月30日（137日間）
- 対象範囲 札幌市内（1キロメッシュ数 1,192）
- 参加者数 140チーム、879名 小学生参加 100チーム（71%）  
※一般 287名、中高生 53名、小学生 408名、幼児 131名
- 調査報告数 総データ数 1,897件（対象種 1,438件）
- 調査地区数（1キロ四方単位） 236地区（市内の20%）

### 報告データのあった地区 2019



今回報告がもっとも多かったのは前回に続き、マルハナバチのなかまで、春から夏まで継続的に報告がありました。セミのなかまは、5～6月はエゾハルゼミ、7月以降はその他のセミの報告が多くありました。

**春の花・夏の花**

種名	地区数	データ数
・エンレイソウ	33地区	53
・オオバナノエンレイソウ	17地区	17
・ミヤマエンレイソウ	7地区	7
・ヒダカエンレイソウ	1地区	2

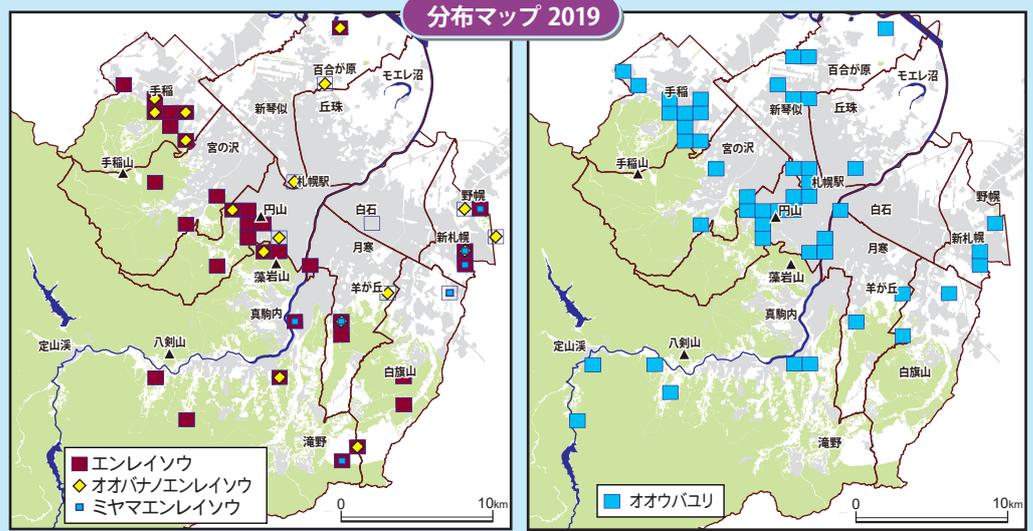
種名	地区数	データ数
・オオウバユリ	48地区	79



今回は春の花としてエンレイソウのなかま、夏の花としてオオウバユリの分布を調べました。エンレイソウ類の開花は調査のスタートよりやや早いため、咲き終わりや果実の報告も多くありました。もっとも多かったのはえんじ色のがくを持つエンレイソウでした。

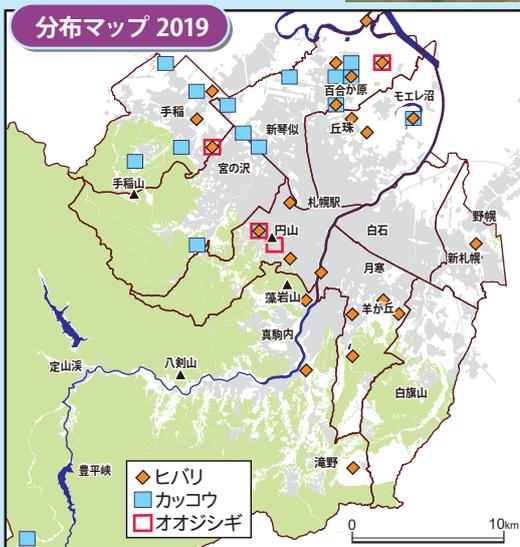
エンレイソウ類は山すそから山地にかけて確認されました。札幌では自然林の象徴と言ってもよい植物なので、まずまず実態を反映している感じです。厚別区にまとまって確認されているのも目を引きます。ミヤマとオオバナは外見が似ていますが、ミヤマ(深山)の方が山の方に広がっているので、データがもう少し増えてくると面白いです。

オオウバユリも自然林の植物ですが、エンレイソウ類よりも低地に多く生育していることが分かります。確認地区数は、これまでに調べた花の中で最大でした。



**野鳥のなかま**

種名	地区数	データ数
・ヒバリ	24地区	30
・カッコウ	16地区	24
・オオジシギ	4地区	4



前回に引き続いて声特徴的な草原の野鳥3種を対象とし、いずれも報告数は少し増えました。札幌市の鳥であるカッコウは北部から西部に集中して報告がありました。オオジシギは、前回と異なる場所で確認はされましたが、確認箇所自体はかなり少なくなっています。

**カエルなどのなかま**

種名	地区数	データ数
・エゾアカガエル	31地区	40
・エゾサンショウウオ	18地区	19
・ニホンアマガエル	8地区	16
・ツチガエル	8地区	16
・アスマヒキガエル	2地区	4



エゾアカガエルやエゾサンショウウオは、前回より多くの報告があり、確認地区が増えました。場所としては、山地の麓～山地内と自然度の高い公園周辺で確認されています。外来種も確認地区が増え、分布拡大が懸念されます。

※分布図のメッシュマーク(□)はそのグループの報告があった箇所を示す。  
※赤い種名は、外来種を示す。

## マルハナバチのなかま

種名	地区数	データ数
・外来タイプ	94地区	212
・三色タイプ	58地区	164
・黄色タイプ	46地区	109
・灰色タイプ	31地区	52
・赤色タイプ	20地区	25

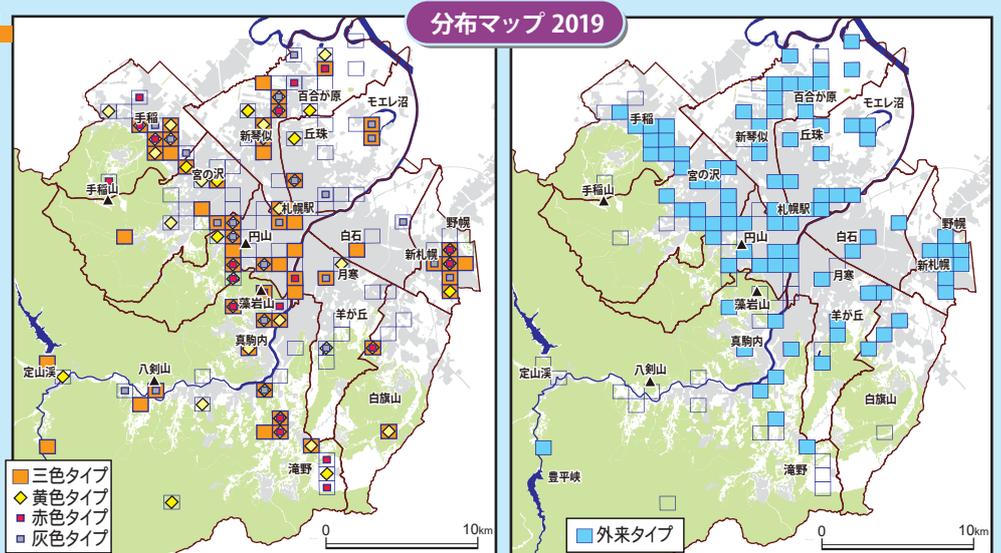
外来タイプ(セイヨウオオマルハナバチ)



三色タイプ(エゾマルハナバチ)



黄色タイプ(エゾマルハナバチ)



マルハナバチについては今回も多くのデータが集まりました。在来種は三色タイプを中心に多くの確認があり、一つのメッシュで3タイプが確認された場所もいくつかありました。市街地にも多様なタイプが生息するのは興味深いです。

外来タイプもほぼ前回同様の結果になりましたが、手稲区・西区・中央区の山すそ(山地と低地の境界)の情報が今回は多く集まり、分布の前線がより明らかになりました。定山溪自然の村付近で確認されたことも注目です。

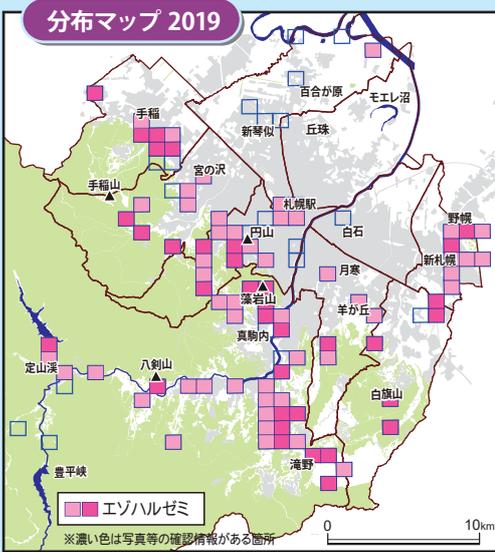
## セミのなかま

種名	地区数	データ数
・エゾハルゼミ	85	145
・エゾゼミ	13	19
・コエゾゼミ	11	12
・アカエゾゼミ	2	2
・エゾゼミ類	6	8
・アブラゼミ	13	18
・ミンミンゼミ	4	4
・ツクツクボウシ	3	5



今回初めて調査したセミのなかまは、7種類が確認されました。もっとも多かったのは春に発生するエゾハルゼミで、山地から山麓にかけて、大きな公園緑地などで、市内全域において確認されました。

夏に発生するエゾゼミ類では、ぬけがらでの見分け方が難しいものの、エゾゼミがもっとも多く確認されました。アブラゼミは市内中心部、ツクツクボウシは真駒内周辺など、既知の分布域で主に確認されています。



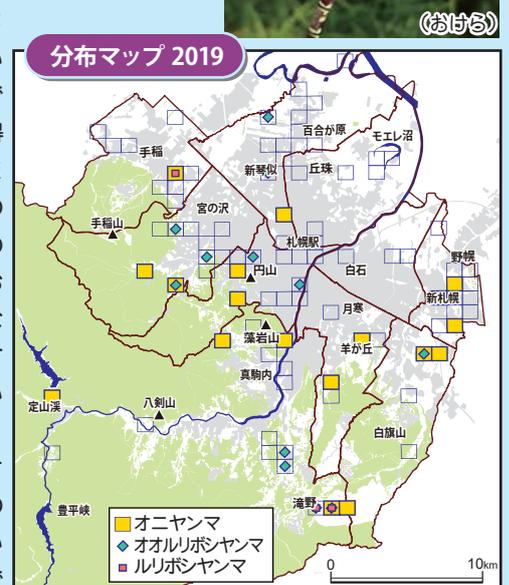
## トンボのなかま

種名	地区数	データ数
・アキアカネ	45地区	75
・ノシメトンボ	26地区	31
・シオカラトンボ	19地区	28
・オニヤンマ	18地区	35
・ナツアカネ	17地区	21
・オオルリボシヤンマ	14地区	23
・ミヤマアカネ	8地区	9
・シオヤトンボ	5地区	10
・ルリボシヤンマ	3地区	4



図鑑に掲載された種類については、前回までと近い結果が得られました。また、それ以外の種類のトンボの報告も増えており、いろいろなトンボに着目する方も増えているようです。

図にあげたオニヤンマなどのヤンマ類については、市街地での確認がやや減っています。環境の変化があるというより、年による発生数の違いが現われているのかもしれませんが。今後の推移を注目したいと思います。



## ★ 参加チームのランキング発表!

### 報告数（今回対象のグループ）ランキング

チーム名	報告データ数	報告地区数	参加人数	チーム名	報告データ数	報告地区数	参加人数
1 チーム白土家	143	22	6	12 yumu	24	11	3
2 やまごん	132	16	14	13 チームはやぶさ	23	7	6
3 チームさんたるべつ	126	30	18	14 チーム石原	19	2	6
4 SIRO	101	9	5	15 はーもにん 2019	18	8	6
5 生き物好きの名無しの権兵衛	78	20	2	15 つるーやはるーと	18	5	4
6 チームカーブ	58	23	6	15 ノナック	18	4	2
7 いまいどり	36	9	5	15 さすらいのハイカー	18	4	2
8 へびーまめさんず	28	7	6	19 しぜん楽しみ隊	17	8	7
9 TsubaSakura	26	6	4	20 おけら	15	5	4
9 すすなお	26	5	3	20 ザ・ビートルズ	15	4	21
9 旭山森と人の会	26	1	1				

今回参加いただいたチームの報告数ランキングを発表します。上位チームには、限定グッズをお送りします。たくさんの報告、写真をありがとうございました。



屯田中央中学校（北区）

KOTAXGOGO(西区)

## ★ 多くの写真をありがとうございました!

参加者の皆さんには今回も多くの写真をお送りいただきました。事務局選考により、下記の10点の写真が優秀賞として選ばれました。さらにCISEサイエンスフェスティバル（1/9～10、札幌地下歩行空間）におけるパネル展で人気投票を行いベスト3を決めます!!



コオニヤンマ（やまごん）



コエツゼミ（チームS&R）



カッコウ（陸上小僧）

今回対象とした生き物以外の動植物の写真も送っていただいています。市内の分布情報蓄積のため、いろいろな写真をお待ちしています。



カワセミチーム



チームカッコウ先生



エンレイソウ（さすらいのハイカー）



アカマルハナバチ（はーもにん 2019）



オオウバユリ（生き物好きの名無しの権兵衛）



ヒバリ（ヒロムシ）



ナツアカネ（チームさんたるべつ）



オニヤンマ（令和最初の虫探し隊）



エゾアカガエル（旭山森と人の会）

## ★ おわりに

4年目となった「さっぽろ生き物さがし」は、2019年1月に完成した「さっぽろ生き物ミニ図鑑」を参加者全員に配布し、初めて春から秋まで連続して実施しました。継続して参加し、調査方法に慣れてきたチームも増えたかと思います。継続参加のチームに加えて、新たな参加チームも増やしなが、今後も少しずつ札幌市内の生き物の分布情報を積み上げていきたいと思えます。今後も札幌市では、市民の皆さんにご協力いただきながら生き物調査を行っていく予定ですので、参加や周囲への声かけをよろしくお願いいたします。両生類については、前回同様北海道爬虫両棲類研究会の徳田龍弘さんのご協力を得て、ハーブソクHokkaidoと連携して実施し、セミ類については札幌市博物館活動センターの調査事業と連携して、北海道大学農学部の神戸崇さんのご協力を得て実施しました。感謝申し上げますとともに、今後も連携しながら調査の充実とデータの活用を進めていければと思います。

また参加してほしいッコー!



札幌市の生物多様性PRキャラクター「カッコウ先生」

■監修・協力・写真提供 神戸崇・徳田龍弘・堀 繁久・道川富美子

○さっぽろ生き物さがし2019事務局（さっぽろ自然調査館内）

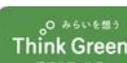
〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45山岸ビル  
電話 011 (892) 5306 ファクス 011 (892) 5318（担当：渡辺・丹羽）

○主催 札幌市環境局環境共生担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎12階  
電話 011 (211) 2879 ファクス 011 (218) 5108

✉電子メール sapporo-ikimono@cho.co.jp

ウェブサイト <http://www.city.sapporo.jp/kankyobiodiversity/chosa/01chosa.html>



発行：2019年12月



さっぽろ市  
02-102-19-2473  
31-2-1597